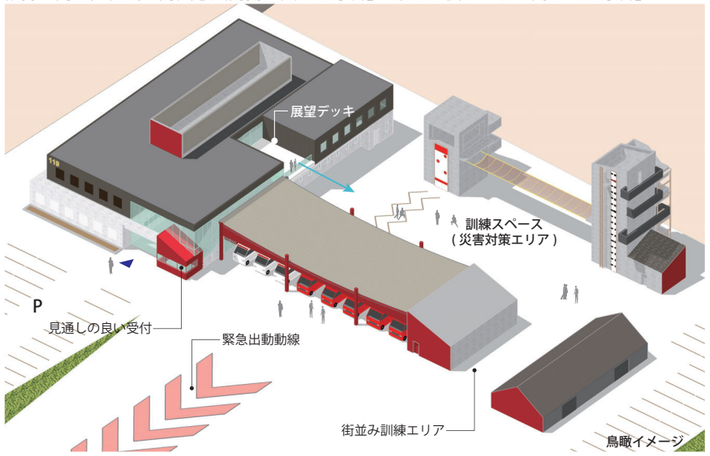
様式８　評価テーマに対する提案　「防災拠点としての配置計画及び動線計画」「消防業務の特殊性を考慮した執務環境，空間構造及び動線計画」「消防力の維持・向上，住民の防災意識高揚が図れる庁舎」「誰もが使いやすく開かれた庁舎」

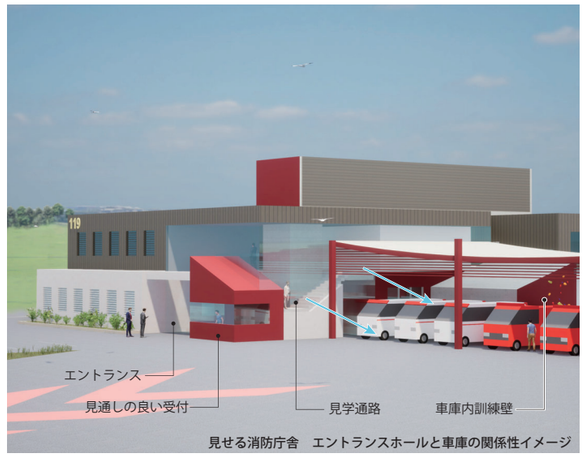
地域の安心安全につながる 架け橋 となる 消防庁舎

❶緊急時の迅速な活動が地域につながる
❷市民の防災意識につながる
❸川のまちの風景につながる

架け橋となる消防庁舎外観イメージ



鳥瞰イメージ

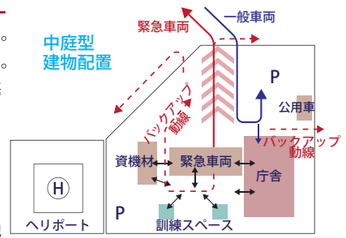


見せる消防庁舎　エントランスホールと車庫の関係性イメージ

テーマ１ 防災拠点としての配置計画および動線計画について

1 緊急時に機動性の高い配置計画

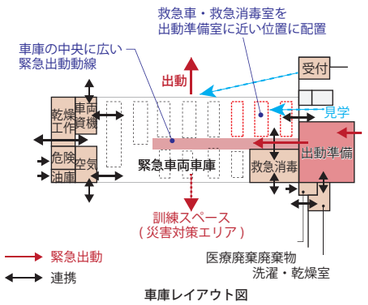
- 緊急車両動線と一般車両動線が交差しないように計画します。
- 緊急車両動線が分かりやすいように、舗装の色で明示します。
- 庁舎・車庫・訓練棟で囲まれた中庭型に建物を配置し、連携しやすいコンパクトな計画とします。
- 緊急車両が直線的に出動できる車庫の配置とします。
- 不測の事態に備え、車庫は２方向に出動可能なものとし、バックアップ動線を確保します。
- ヘリポートのための障害物のない広域なエリアを下段の敷地に確保します。



緊急動線・配置ゾーニング図

2 災害時の迅速な対応・連携を強化する計画

- 出動準備室は広い通路幅を確保し、作戦会議スペースを設け、迅速に出動できる計画とします。
- 車庫内の中央に広い緊急出動動線を設け、迅速に車両へ乗り込める計画とします。
- 出動回数の多い救急車および救急消毒室は、出動準備室に近い位置へ配置します。
- 駐車場・訓練スペースを、災害対策エリアとして受け入れしやすい広さと動線が確保できる計画とします。
- 資機材庫、空気充填室、乾燥・工作室などはそれぞれ緊急車両車庫からアクセスし易く、屋外・屋内の２方向からアクセスできる計画とします。

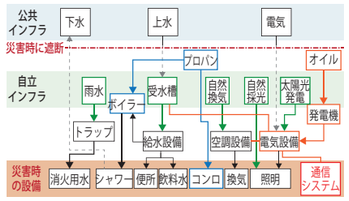


車庫レイアウト図

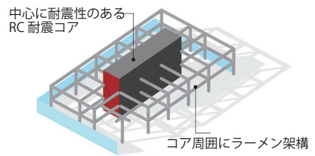
テーマ２ 消防業務の特殊性を考慮した執務環境、空間構造及び動線計画について

5 大規模災害の機能維持

- 公共インフラと自立インフラの二重化を行い、災害時の機能継続に備えます。
- BCP(事業継続計画)：災害規模ごとに、どの範囲をどの程度機能を継続させるか、早期に機能が復旧するための計画を行います。
- 構造コアを中心に配置したバランスのよい耐震構造とし (耐震重要度係数＝1.5)、非構造部材・設備・備付け家具の耐震化を図ります。
- 指令室は床免震装置を設け、地震時も継続的に稼働可能な計画とします。



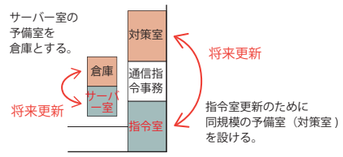
公共インフラと自立インフラの二重化



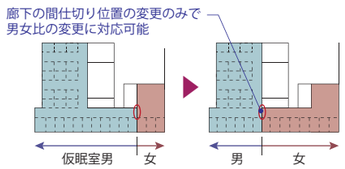
バランスの良い構造計画

6 将来への対応・可変性の高い計画

- 指令室およびサーバー室は、将来のシステムの更新が円滑に行えるように予備室 (対策室・倉庫) を設けます。
- 仮眠室は、将来的な男女比の変化に対して簡単に対応可能な可変的な平面計画とします。
- 大会議室は移動間仕切り壁で、利用人数の変化に対応可能な計画とします。
- 執務室・指令室・サーバー室などは、将来的な設備配線などの変化に対応可能なフリーアクセスフロアとします。
- 間仕切壁は、更新性の高い乾式壁やパーティションとします。



将来的な指令システムの入替え

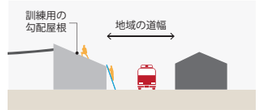


男女比の変化に対応可能な仮眠室

テーマ３ 消防力の維持・向上住民の防災意識高揚が図れる庁舎について

7 多岐にわたる災害・地域性を想定した訓練スペース

- 消防救助技術大会の基準を満たす訓練施設により消防隊員の日頃の技術向上を図ります。
- 三次・庄原の街並みに近い、道幅や勾配屋根を模した訓練スペースを計画します。
- 高層建物の進入訓練に対応した主訓練棟を設けます。
- 敷地の高低差を利用し、山岳救助訓練スペースを設けます。
- 雨水・放水を集水し再利用ができる防火水槽を設けます。



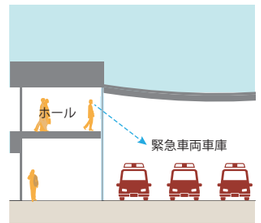
地域性を取入れた訓練スペース

敷地の傾斜地を山岳救助スペースに利用

8 災害意識の高揚する「見せる」消防庁舎

来庁者がさまざまな場所で、消防の活動が身近に感じられ印象に残る消防庁舎とします。

- 来庁者が初めに通るエントランスホールや階段から、車庫や訓練の様子が垣間見える空間構成とします。
- 展望デッキを設け誰でも訓練の様子が見える計画とします。
- 消防業務や指令室の様子を見ることが可能な、周回できる見学コースと見学用の窓を設けます。
- 大会議室は、講習や体験のイベントが開催できるプロジェクターや放送設備を設けます。

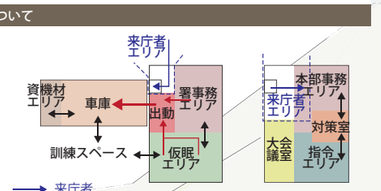


見学通路から車庫を見下ろす

テーマ２ 消防業務の特殊性を考慮した執務環境、空間構造及び動線計画について

3 明快な動線とゾーニング計画

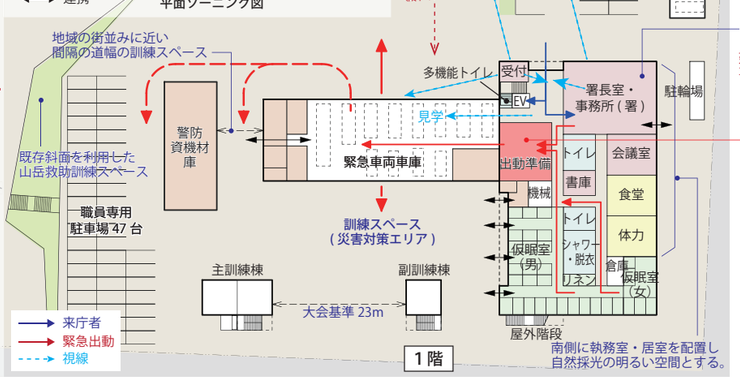
- 署事務・仮眠室・車庫を１階、本部事務・対策・指令を２階とし連携の取れるゾーニングとします。
- 車庫までの緊急出動動線は短く、来庁者動線と明確に分けたゾーニングとします。
- 事務室・受付・車庫は、見通しがよく連携しやすい配置とします。
- 緊急時の迅速な行動に備えて、エリアごとに、屋内屋外を出入りしやすい出入口を設けます。

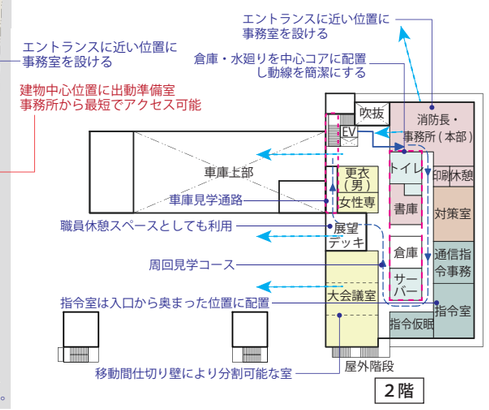


平面ゾーニング図

4 24 時間稼働の消防の特殊性に配慮した計画

- 指令室は、主の出入口から奥まった位置に配置し、遮音壁により外的影響などにより業務を疎外されない構造とします。
- 仮眠室エリアは２交代制の個室とし、事務エリアと明確に分離したプライバシーが確保されたエリアとします。
- ２交代制の署事務室は、デスクのフリーアドレス化により、スペースを有効活用し、コミュニケーションを円滑化します。
- 車庫内に雨天でも訓練可能な訓練設備を設けます。

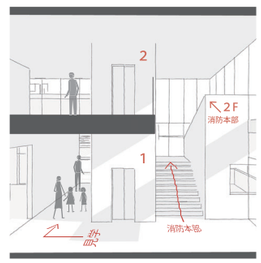




テーマ３ 消防力の維持・向上住民の防災意識高揚が図れる庁舎について

9 誰もが使いやすい消防庁舎

- エレベーター・多機能トイレ・車椅子駐車場などは、身体障がい者も使いやすいユニバーサルデザインとします。
- 自然環境を活かした庁舎とします。居室の自然採光・自然換気を積極的に取り入れます。
- 車庫は自然換気も行えるよう大きな通気ガラリを設けます。
- 女性専用の更衣室・仮眠室・浴室を設けるなど、女性の働きやすい職場を計画します。個々人を大切にしチームワークを高めます。
- 明快な空間構成にあわせて、誰にも分かりやすいサイン計画とします。

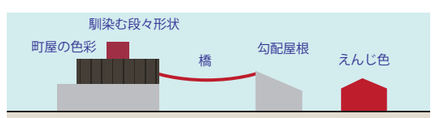


空間を利用したサイン計画イメージ

10 三次・庄原の地域に根ざした消防らしい外観

三次・庄原の風景を取込んだ、消防庁舎らしい堅固な外観とします。

- 歴史的町屋をイメージする白・こげ茶色、三次市・消防のえんじ色、消防らしい強固なイメージのコンクリート色をベースカラーに計画します。
- 地域性のある訓練のための勾配屋根を全体のデザインに取込みます。
- 橋をモチーフにした車庫の屋根は、市民と「防災意識をつなぐ架け橋」としてメッセージ性のあるデザインとします。
- 段々形状により圧迫感が無く周辺環境に馴染みます。



外観デザインの要素

区分		概算工事費
新築	建築工事費	1,314,000 千円
	電気設備工事費	283,000 千円
	機械設備工事費	126,000 千円
	想定する㎡単価	507, 千円 / ㎡
外構工事費		75,000 千円
総工事費		1,798,000 千円